

教育委員会事務局文化財課

担当者 安、小坂

内線 5625、5634

直通 076(225)1844

重要文化財の追加指定について

令和元年10月18日（金）に開催される国の「文化審議会」（会長 ^{さとう}佐藤 ^{まこと}信）において、文部科学大臣から諮問のあった下記の案件の追加指定が審議され、答申された。

追加指定であり、県内の重要文化財（建造物）は45件と変わらない。

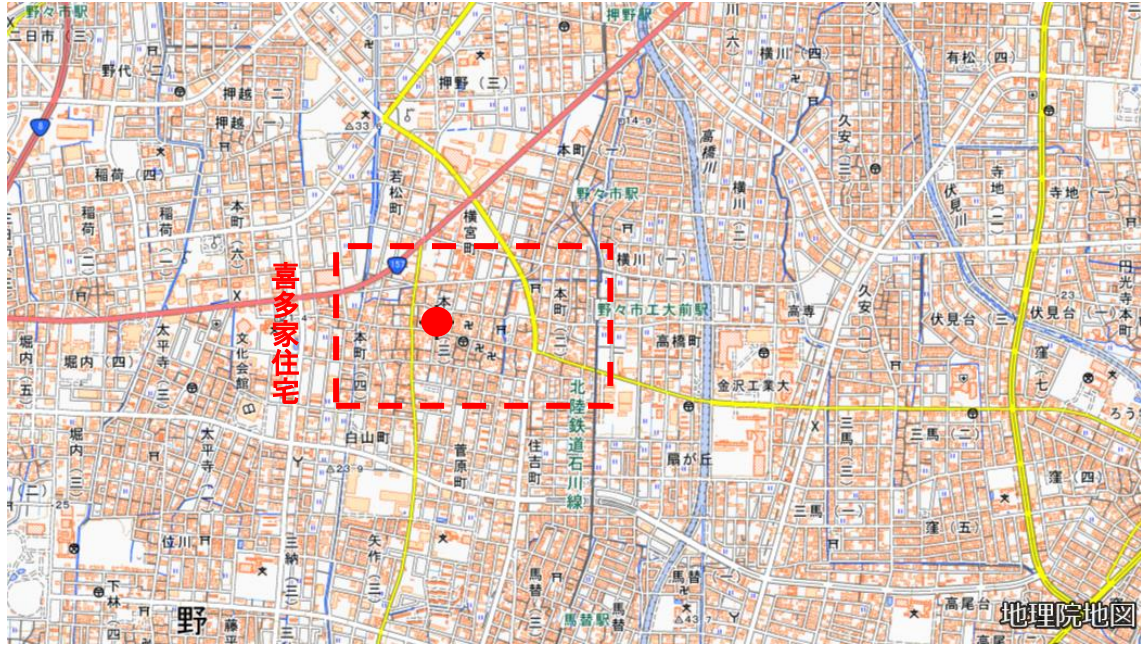
記

名称	所在地	概要
重要文化財（建造物） 喜多家住宅	石川県野々市市本町	喜多家は幕末から、酒造業を営んでいた旧家であり、主屋及び道具蔵が昭和46年に重要文化財に指定されている。 今回、酒造施設（作業場、酒蔵、前蔵、貯蔵庫及び土地）が、追加指定される。

喜多家住宅

名称	喜多家住宅 <small>きただけじゅうたく</small>
種別	重要文化財建造物（昭和46年12月28日指定）
構成	[既指定] 主屋、道具蔵 <small>おもや どうぐぐら</small> [追加指定] 作業場、酒蔵、前蔵、貯蔵庫及び土地 <small>さぎょうば さかぐら まえぐら ちょぞうこ</small>
所在地	野々市市本町3丁目22番地、23番地、24番地、25番地
所有者	個人
構造及び形式	主屋：木造、桁行22.2m、梁間15.1m、二階建、棧瓦葺 道具蔵：土蔵造、桁行7.8m、梁間5.9m、二階建、棧瓦葺 作業場：木造、桁行12.1m、梁間12.8m、平屋建、棧瓦葺 酒蔵：土蔵造、桁行17.3m、梁間8.2m、二階建、棧瓦葺 前蔵：土蔵造、桁行9.1m、梁間5.0m、平屋建、棧瓦葺 貯蔵庫：土蔵造、桁行7.3m、梁間4.8m、平屋建、棧瓦葺
概要	<p>喜多家はもと越前の武士であり、江戸時代中期頃、野々市に移ったとされ、幕末から酒造業を始めた。</p> <p>明治24年（1891）の野々市の大火により、主要な建物を失ったため、金沢市内の商家を購入して、主屋として移築し、併せて酒造業の一連の施設を整備した。昭和50年頃まで営業していた。</p> <p>酒造施設は、主屋北側に接続し、作業場を中心に、その東側に前蔵と酒蔵、西側に貯蔵庫を配する。</p> <p>作業場は、洗米や蒸米、瓶詰作業を行った建物で、中庭からの採光や水路を利用した洗い場など、敷地条件を活かした造りとなっている。</p> <p>酒蔵は、明治3年（1870）建設で喜多家最大の蔵であり、間口の大きな入口、<small>かいいれ</small> 櫓入作業の足場など酒蔵としての特徴を残している。</p> <p>前蔵は、江戸時代後期に建設された土蔵であり、酒造業では仕込み蔵として利用された。</p> <p>貯蔵庫は、腰壁に七宝<small>しっぽうつなぎ</small> 繫文の模様が施されており、主屋座敷から見た中庭の背景と調和を生み出している。</p> <p>以上、喜多家が整備した酒造業の一連の施設は、明治期の地方の小規模酒造業の原型をよく残していることから、追加指定して保存を図るものである。</p>

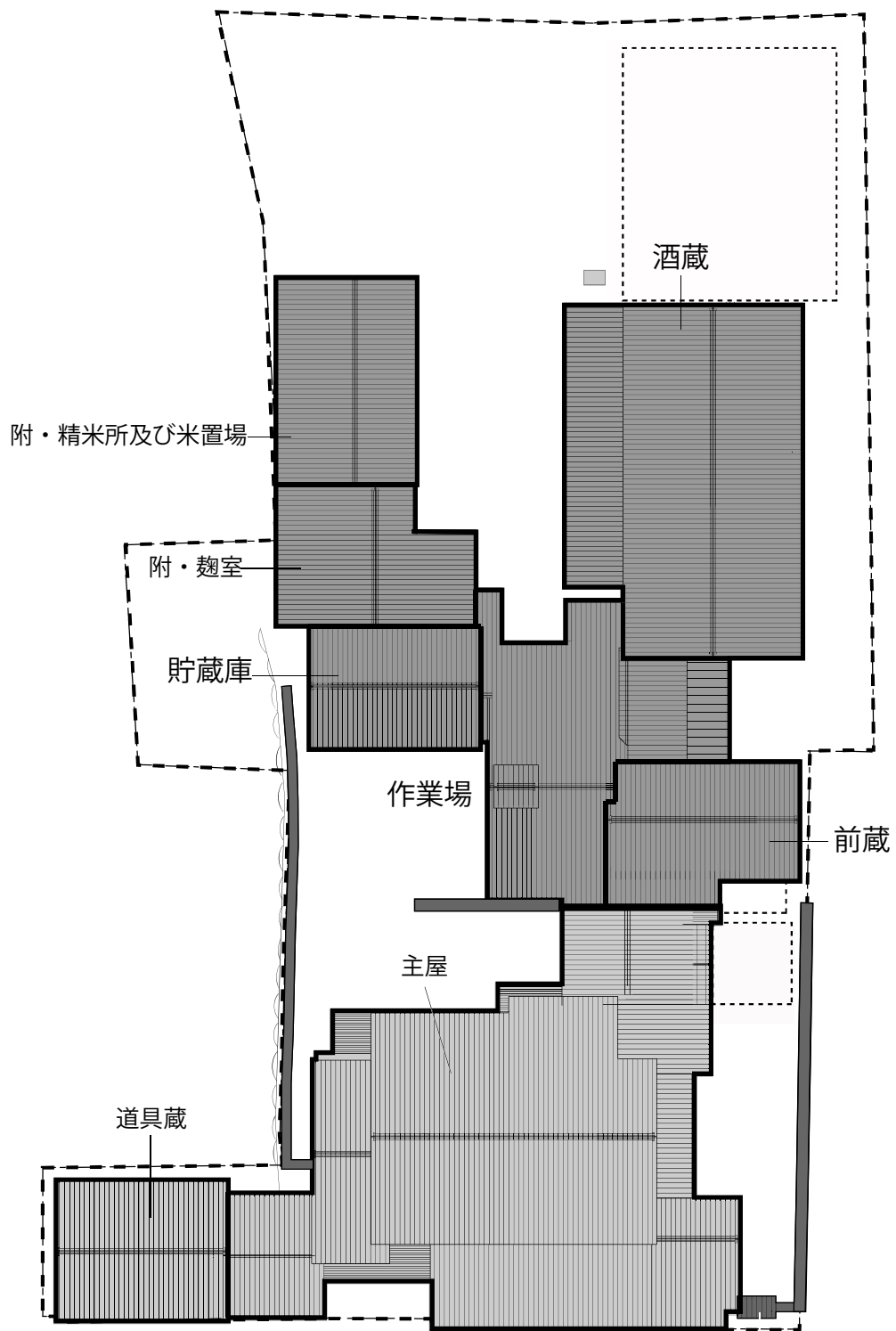
喜多家住宅の位置



広域



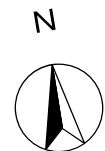
詳細



既指定重要文化財建造物



追加指定重要文化財建造物



0 10 20m

配置図



酒造施設全景（北から）



作業場外観（北から）



酒蔵外観（西から）



作業場内部（北から）



貯蔵庫外観（西から）